

ラボ・センター紹介

グローバルこと・ものづくり研究ラボ (Global Product Value Creation Research Laboratory)

代表 中野 冠 教授

メンバー 保井俊之特別招聘教授、湊宣明特任准教授、野中朋美特任助教、博士課程学生、
修士課程学生、SDM研究所研究員、他大学教員、企業関係者ほか



現在我が国ものづくり企業の事業環境は6重苦と呼ばれるほど厳しく、円高を背景とした貿易収支の悪化、国内産業の海外移転などの問題が顕在化しています。本ラボでは、これまで技術力を武器に世界と勝負してきた日本企業の競争力再生を目的として、システム思考ならびに顧客との価値協創力を中心に据えたことづくり志向による企業システムデザインを研究しています。他研究科・他大学・企業等と協力して、我が国のものづくりの課題を抽出し、今後の技術戦略や経営管理のあり方を議論して、企業や政府への提言を作成することを目指します。

グローバルものづくりの課題

我が国ものづくり企業を次の3つに分けて検討しています。

① グローバル製品分野(自動車・家電・半導体・工作機械など)

海外販売の割合が大きい、製品のボリュームゾーンでビジネスをしている、日本経済に占める割合が大きい分野です。

② 大規模プロジェクト分野(プラント、ゼネコンなど)

グローバルにおけるビジネスでは経験豊富な人材を必要とし、我が国は、要素技術は高くてもシステム技術は弱いと言われている分野です。

③ 先端要素技術分野(精密機械・先端材料(医療用機器、宇宙部品など))

高度技術を有する中小企業も多く存在し、円高の影響は比較的少ない分野です。

これまでの研究から、日本はこれまで自前主義・改善思考・reactive型リスク管理が得意とされますが、今後はグローバル調達主義、システム思考、proactive型リスク管理を取り入れた日本型の経営が望まれると考えられます。



トヨタ自動車株式会社を訪問したラボメンバー

ことづくり方法論の開発

本ラボでは、次のような課題に対して、システム思考と社会&技術アプローチ(Socio-technical approach)に基づき、ことづくりに関する様々な方法論を研究しています(図)。可視化、ことづくり創発、ビジネス性の定量的評価、事業としてのシステム設計など文理融合の包括的方法論を構築していきます。現在、以下のような対象に対して具体的に研究しています。

- 環境都市デザイン
- 超小型乗用車の社会システムデザイン
- カーシェアリング
- パーソナルエアクラフト
- グローバル商品企画方法論
- 持続可能な都市再開発のデザイン方法論

ラボでは、定期的に会合を開いております。
皆様の参加をお待ちしています。

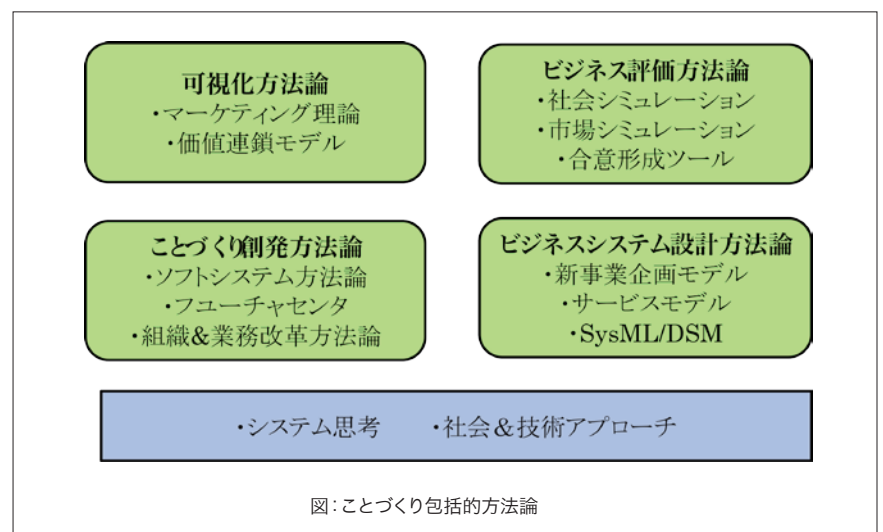


図: ことづくり包括的方法論



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management